

業務部速報



No. 3

発行 19. 6. 18

JR東労組 業務部

2015年申13号 「鉄道車両製造業の再編」を検証し、働きがいのある鉄道車両製造事業の実現を求める申し入れ その②

団体交渉を行う

□ J-TREC と E-TEC (JRTM) の業務体制について (要旨)

- 《組合》 J-TREC が企画部門や製造部門。JRTM が部品製造や車両製造に分かれて、2社体制で車両製造を行って行くのか。
- 《会社》 そうだ。
- 《組合》 職場からは現状が違うことが言われている。例えば、構体の製造部門でも、子会社含め5社入っている。他の行程でもほぼ同じに入っている。当初の括りと大分違う。海外の方も多くいる。
- 《会社》 JRTM の作業の中で、海外の方を技術継承を踏まえて、子会社へ委託しているという話を聞いている。ここは様々な役割の中での業務である。仕事としては、J-TREC と JRTM の2社である。
- 《組合》 当時の団体交渉で、なぜ2社なのかという組合側の質問に、「作業がしやすく、安全性が高まる」その根拠として「作業上の経験や取り組みを伝えていくことで安全や品質の向上を図る」「担当業務が小規模に区分されている。委託拡大することにより、協力しやすい体制になる。不具合の責任も明確になり、安全を高める」と会社が回答している。きちんと当初の JRTM に委託した目的がある。しっかりそこに貫徹しなければいけないのではないのか。
- 《会社》 当時そのような議論をして、その通りに進めていかなければならないと考えている。その中で、JR東日本として車両製造を発注して、製品を上げていただくという関係である。この中で今のところ J-TREC と JRTM に話を聞いている上では、不都合はないと聞いている。
- 《組合》 労務単価比が抑えられているのか。
- 《会社》 労務単価はこの場で答えられることはないが、特に TM が車両製造事業を担いたくないと聞いている。安心して新津の場で製造事業を展開していくということを念頭にバックアップを行っていく。
- 《組合》 車両製造の誇りを持っている社員がいる。会社側が実際にどうなのかとしっかり把握してほしい。
- 《会社》 現状を把握して、提起の部分は確認しながら、これまでの議論として間違っているようならば指導したい。受け止めて実態をきちんと把握して進めたい。

□ 出向者の希望について (要旨)

- 《組合》 出向に出た人をどのようにケアしていくのか。ここは本体の課題である。枠があるから戻れないというのが職場で言われている。実際にはそうではないと思うが、希望を聞きつつ、キャリアを形成してやりたいことをどうかなえるか。
- 《会社》 貴重な人材なので、旧製作所で学んだことを活かしていただきたい。意見交換しながら、出向者に対して本社か支社で行っていきたい。

□ 今後について (要旨)

経営の第4の柱を担う仲間のために実態把握を求める!!

- 《組合》 今交渉では議論し尽くせないという認識である。交渉経過も踏まえて、経営の第4の柱を担う決意で施策を担っている組合員・社員、現実について、本社としても実態把握していただきたい。組合も現実把握して行きたい。
- 《会社》 同じ認識だ。新潟支社だけではなく本社も把握して出向者に不安が及ばないようにフォローしたい。
- 《組合》 今交渉はこれで終わるが、引き続き経営課題と位置付け克服に向けて議論して行きたい。
- 《会社》 今後も具体的提起があれば議論したい。

JR 東労組へ結集し働きがいある職場をつくろう